

国語学習指導案

1 単元名 読んで考えたことを話し合おう 「ごんぎつね」

2 単元の目標

- ・場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むことができる。
- ・文章を読んで考えたことをもとに話し合い、互いの考えの共通点と相違点を考え合いながら話し合うとともに、一人一人の感じ方の違いに気づくことができる。
- ・目的に応じて書くとともに、書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を伝えあうことができる。

読 (1) ウ・エ・オ、話・聞 (1) オ、書 (1) ア・カ、伝国 (1) イ (ア)

3 単元に関わる子どもたちの実態

全体的に学習に対して意欲が出てきた子どもたちである。課題に対して自分なりの考えを持つことができる子が多く、進んで発言する子が半数ほどいる。活動が停滞した時や挙手が少ない時には、ペア学習により、自分の考えを持つことができたりはつきりさせたりすることができ、活動が活発になっていくことがわかってきた。

しかし、授業に積極的に参加しようとする子が多い反面、集中して参加することが苦手な子もいる。読むこと、文字を書くこと、自分の考えをノートに書くことが苦手な子がいる。また、文章の細かいところにこだわりすぎてしまい、作者の意図や場面の様子を的確にとらえることが苦手な子もいる。

教材を視覚化して課題に積極的に関わられるように工夫し、ペア学習を取り入れて自信を持たせたり、キーワードを板書してそれをもとに考えを書かせたりしながら全体の活動を行っていくが、必要に応じて個別支援を行っていく。

4 単元の展開 (12時間扱い)

次	時	学習活動	指導上の留意点
一	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">ごんぎつねはどんなお話かな</div> <ul style="list-style-type: none"> ・挿絵を並べ替え、感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵を話の流れの順に並べ替えさせ、話のだいたいをつかむことができるようにする。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物を確認し、わかりにくい言葉の意味を写真や話し合いで確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物という言葉の意味を理解させ、写真などを使って情景や言葉をつかむようにする。

	3	・ごんの行動からごんの性格をとらえる。	・揺さぶり発問によって、ごんの深層心理に気づくことができるようにする。
二	4	物語を読み味わおう ・視点人物と対称人物をとらえる。 視点人物=ごん 対称人物=兵十	・川で魚をとる兵十の3枚の絵と文を並べ替え、視点の移動に気づかせる。 ・「ぼく読み」をし、視点人物を明確にする。
	5	・視点人物から見た情景描写の意味を考える。	・「ぼく読み」をし、情景描写からもごんの気持ちがわかることを理解できるようにする。
	6	・対比や色彩語に着目させ、場面の様子をとらえる。	・色彩語を入れた文と色彩語を抜いた文を音読し、色彩語の効果を理解できるようにする。
	7	・情景の変化から人物の心情の変化を考える。	・情景描写を入れ替えて音読したり話し合ったりして、情景の変化からごんの心情の変化に気づかせる。
	8	・ごんの行動の変化から、ごんの心情の変化をとらえる。	・ごんの行動を表にまとめ、行動の変化から心情の変化をとらえることができるようにする。
	9	・兵十とごんの位置関係や心情を考えながら役割読みをする。	・役割読みをすることで兵十に気づいてほしいごんの気持ちに気づくことができるようにする。
	10	・視点が変わったことをつかませ、兵十の心情の変化について話し合う。	・兵十が見たものを時間順に並べ替え、「ぼく読み」をして視点が変わったことを気づかせ、その効果について話し合う。【本時】
三	11	心情の変化をとらえよう ・ごんの心情の変化を一文で表し、感想を発表する。	・文と挿絵を対応させて考えさせ、ごんの心情の変化を一文で表すことができるようにする。
	12	・心のずれを表した図を考え、説明できるようにする。	・ごんと兵十の心のずれに合った図を選ばせ、説明することで、兵十の心情の変化について気づくことができるようにする。

5 本時案

(1) 主眼

兵十に悪いことをしたと思い、つぐないをしている自分に気づいてほしいというごんの気持ちを考えてきた子どもたちが、「ぼく読み」をしたり挿絵を並べ替えたり、しかけ文を読んだりして、視点がごんから兵十に変わっていることを考え合うことを通して、兵十の気持ちの変化について書くことができる。

(2) 本時の位置

12時間扱い中の第10時

前時:自分がくりなどを置いていることを兵十に気づいてほしいというごんの気持ちを話し合う。

次時:ごんの気持ちの変化をとらえ、自分の言葉を使って一文で表す。

(3) 展開

	学習活動	予想される子どもの様子	教師の支援	時間
つかむ	1 学習問題を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> 一番悲しい場面だ。 「ごん=ぼく」で読むとおかしい。「ぼく」は兵十に変わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「6の場面は今までの場面と違うところがあるよ。「ぼく読み」をしてみよう」と切り出し、視点がごんから兵十に変わっていることに着目させる。① 	10
考える 話し合う	2 3枚の挿絵を並べ替えて、兵十の気持ちを考える。 3 兵十の気持ちの変化について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 「うちの中を見ると、土間にくりが固めて置いてあるのが」って書いてあるから家の中をまず見たと思う。 撃ったんだからごんをまず見ていると思う。 「びっくりして、ごんに目を落としました」って書いてあるからごんは最後だ。 家の中を見た時は、ごんがいたずらをしたと疑っていたと思う。 ごんを撃った時には「やった」と思ったと思うけど、くりを見た時に「えっ、もしかして」と気付いたと思う。 憎らしかったごんが、毎日くりを置いてくれていたということがわかって撃ってしまってどうしようと思った。 ごんの視点から書いてある文だと、兵十の気持ちはわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> 家の中・固めて置いてあるくり・撃たれているごんの3枚の絵を提示し②、兵十が見たもの順にペアで③並べ替えさせる。 早くできたら、兵十の気持ちがどう変わっていったか考えさせる。 叙述に沿って絵を並べるようながしていく。 発表させ、全体で兵十の気持ちを共有していく。④ 「ごんの視点だったらどんな話になるでしょう。」と投げかけ、しかけ文(ごんの視点で書かれた文)を提示する。⑤ 「ごんの視点で書かれている文を読んでみて、兵十の気持ちはわかりますか」と問いかけ、視点を変えることによって兵十の気持ちがわかることをおさえる。 	10 17
ふり返る	4 兵十の気持ちの変化を学習カードに書く。	<ul style="list-style-type: none"> 兵十は、始めはごんのことを憎んでいたけど、土間に固めてあるくりを見て、ごんを撃ってしまったことを後悔している。 キーワードを使うと書けそうだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードに兵十の気持ちの変化を書かせる。 困っている子にはキーワード⑥を板書し、それを使って一文で書けばよいことを伝える。 	8

